

## 障がい等地域支援ブロック会議報告(平成30年4月～平成30年6月)

資料2

月	参加機関数	参加者数	担当機関名	事例タイトル	検討項目	意見	課題
4	22	25	生活支援センターふなき	発達障害で感情コントロールが難しいケースの支援について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害、精神障害、知的障害の衝動性や攻撃性を鎮める具体的手立てについて。</li> <li>・本人以外の子ども、家族の支援について</li> <li>・通院先が遠方の場合の医療との連携について。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセリング、通所サービスを利用し、第三者から認められる体験をする。</li> <li>・医療と密な連携をとる。</li> <li>・衝動性、攻撃性が出現したら、嫌なことをメモにとる。アンダーコントロールの手法。</li> <li>・子どもの保育所の利用。</li> <li>・一時でも近場への転院を検討。</li> <li>・同居している祖父が、子育ての支援等、もっと家族に関わりを持つよう行動変容するための声かけ。</li> </ul>	発達障害で衝動性、攻撃性が強い場合子育てがうまくいかず、家族関係も悪化している場合、地域・医療・福祉はどのように支援すべきか。
5	25	31	セルフ藤山	高次脳機能障害の方の症状変化への対応について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労継続支援B型を利用しているが、去年から突然集中ができなくなったり苛立ちがひどくなっている状況について、どのように対応すべきか。</li> <li>・キーパーソンの母親が高齢になり体調不良もあるが、本人が気乗りしない状況で今後の生活をどのように支援すればよいか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画相談員や事業所職員が専門医への受診に同行し、状況を伝え相談する。母や支援者の本人への接し方を相談する。専門医に対し、高次脳機能障害について相談し、本人ともきちんと話をしていく。</li> <li>・日中一時支援やショートステイ、ヘルパーを利用することで、母亡き後の生活のあり方を一緒に考えていく。</li> </ul>	高次脳機能障害で本人は将来像を描けない場合、親亡き後に備えた支援をどのように進めていくべきか。
6	24	27	ワークスペース創	安定して働きたい本人及び家族への支援について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害と診断され、就労継続支援B型に通所している本人及び弟、そして親二人の四人が1Kのアパートで生活している。本人は不眠で通所しても作業ができない状態が続いており、母も本人の精神状態に対し不安が強く、毎日何度も支援者へ相談があるが、どのように支援すればよいか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画相談員と連携し、母への支援者を増やすことで、母自身の受診につなげる。</li> <li>・支援者が主治医に生活状況を伝え、主治医から本人の特性や睡眠問題の説明をもらう。</li> <li>・ショートステイの利用。隣の部屋など近くに部屋を借り、父母が引っ越し分離する。家族がそれぞれの自由時間を持つようにする。</li> <li>・父へ民生委員や地区担当保健師から地域の活動などを紹介してもらい、参加をうながしてもらう。</li> </ul>	発達障害の特性により、信頼関係の継続や問題解決のための支援が受け入れられない場合、どのように支援していくべきか。